

平成 21 年度第 5 回公民館運営審議会議事録
(要点)

日 時 平成 21 年 10 月 9 日 (金) 午後 7 時～9 時

場 所 永山公民館 4 階 視聴覚室

出席者：8 名

欠席：1 名

職員：6 名

1. 議事録署名 委員

2. 内容

〔1〕報告事項

平成 21 年 10 月 1 日付人事異動

〔2〕事業進捗質疑

① 主催事業進捗状況……資料 1

事務局 永山フェスティバルの結果(速報) 51,000 人(昨年 48,000 人)
感想 活気があった。(鈴木委員) 友人がフラメンコを踊り楽しかったという感想を聞いた。(増永委員長)

事務局 ベルプゼみの委員は 1 期、2 期で募集しているが、両方している方もいる。(企画委員としてなど)

委員長 全体的に参加者が増加してきているようである。

事務局 公運審等の意見を反映させていただいている結果と考えている。

事務局 今年新しく企画した事業はほとんど定員をオーバーしている。(社会起業家講座)
市民企画講座(7 団体)、落語体験講座、経済セミナー(3 回)、人形劇まつりの紹介。
やまばとホール解体工事を 12 月～8 月まで行う。10 月 25 日(日)に近隣自治会等への説明会を実施する。

② 施設別使用状況……資料 2

質問なし。

(3) 議事

① 答申審議(3)

委員長 今回と次回の審議会で大枠を作る。その後事務局と委員長、副委員長でまとめる。2 月に最終の検討をする。配布した資料は前回までの審議内容を基に事務局に作成してもらった「たたき台」である。今回はこれを基にディスカッションをしていきたい。高橋俊委員さんから原稿をいただいているが、このディスカッションの中でご発言いただきたい。他の委員さんもこの場でご発言いただきたい。

事務局 答申（案）の説明

「はじめに」は増永委員長からの原稿を反映した。「おわりに」は未定稿。
原案の「たたき台部分」はP10～P14の部分である。前回までの審議内容をベースにして作成した。P11～P12「公民館事業について」は前回の審議でまとめて行く方向となった「集う」「学ぶ」「つながる」というキーワードでまとめてみた。また、具体的な提案を入れられるようにスペースも確保してある。P12～P13は他の施設との連携である。これについても「集う」「学ぶ」「つながる」でまとめてみた。5はまとめの部分である。6は公民館運営審議会と他の委員会との連携の可能性の部分である。
以上は、事務局からのたたき台である。

委員長 「（１）利用方法等の改善」についての意見を出してください。

高橋さんのインターネット申込についてのご意見はどうしますか。後からでも良いので気がついた点は発言いただきたい。

「（２）公民館の付加価値を高めるために」についてご意見を出してください。

アクセスの件はどうですか。実現可能性からは館としてはどう考えているか。

事務局 前回までの討議では、車でのアクセス、ICT 装備の遅れ、地域偏在等の指摘があった。実現の可能性については、バス路線の拡大についてはバス事業者の協力が必要である。ミニバスについても市の事業として行っているが、事業者との協力関係が必要であるので必ず出来るというものではない。ただ、審議会の意見の中で、偏在と多摩センター方面からの関戸公民館へのアクセスが悪いという意見があるので、その部分で盛り込みたい。近隣民間駐車場の割引対応は検討の余地があると思う。ただし、既存の地区なので新たな駐車場の設置はほぼ不可能である。

委員長 ITC 装備ついて具体的には？

委員 方向性を書けばよいと考えている。

委員長 高橋委員さんはどうお考えですか。

委員 付加価値というものの説明が必要と考える。

事務局 タイトル、見出し等についてもまた練れていないのでご理解いただきたい。付加価値という表現が適切でなければ変更していただきたい。

委員 付加価値というには、すでにこの内容は目新しいものはない。遅れを取り戻す内容である。「利便を高める」などという表現がよいのでは。付加価値という内容はまた別にここで議論されるべきであろう。

委員長 「（３）多摩市の公民館施設の将来像について」はどうですか。公民館とコミュニティーセンターとの連携ですが、これは管理運営のところに入れたほうがよいのか？ 夢を語る部分でもよいのでは？

事務局 事業の中では語りにくいと考え、また要望書ではないので、この部分に入れるのがよいと考えた。

委員長 「3. 公民館事業（社会教育事業）について」に入ります。

委員 「集う」と「学ぶ」の区別がしにくい。また、「公民館」と「コミュニティーセンター」との違いは何か。公民館とコミュニティーセンターのイベントの棲み分けをするのが必要ではないか。

委員長 永山フェスティバルなどが公民館のイベントのイメージと思う。

事務局 公民館がどこまで地域に入り込めるかは課題であり、難しい面もある。永山フェスティバルのような規模のものを年に複数回実施するのは人員体制や準備等の関係で難しい。

委員長 関戸のイベントはどうか。

事務局 地域ふれあいフォーラム、桜まつり・朝顔市・花火大会での協力事業、アニバーサリーなどコンパクトなものを実施している。

委員長 現在実施しているものにも触れたほうがよい。

委員 そもそも「地域の力でまちづくりを実現する公民館」とはどういうことを意味するのか。公民館のステップアップと地域の人を育てるという課題がある。これがつながることが必要である。

委員長 市民が自分たちで作りに上げていくのと、行政がお膳立てをするのはある意味では矛盾していることである。この兼ね合いが難しい。

委員 両輪と考えればよい。

委員長 両輪であるような事業がイメージできるとよい。

委員 ただ、「集う」という意味を整理しないといけない。

委員 ボランティアセンターの事業で、つなげることを意識した事業がある。公民館できっかけをつくって、地域で集って広げていってほしい。学んだだけで終わっている人が多い。

委員長 以前から、つなげたいが、地域で広がっていかないという指摘があるがどうか。

事務局 地域に広げていくためのコーディネートは非常に時間がかかる。現在の公民館の力からすると限界がある。「ヘルプゼミ」など数が限られる。

委員長 この枠組みがかなり難しいか。

- 事務局 枠組みがなしで検討してもらってよい。
- 事務局 公民館や文化スポーツ課で主催しているものは、地域に還元してもらいたいという方針で行っている。
- 委員 地域で広げてもらうためには、公民館とコミュニティーセンターとの連携があるとよいのではないか。公民館で講座を受けた人がコミュニティーセンターに行って教えることが出来る。
- 事務局 個人でやりたいという人は結構おられる。ただ現状では、共感を得て組織になることが出来ない状況である。組織になって地域に戻ってもらうことが必要である。その部分でお手伝いするのも公民館の役割である。具体的には実行委員会活動を支援する形で展開している。
- 委員 関戸で「桜まつり」や「朝顔市」などをやっているが公民館の事業として位置づけて行っているということが周知、理解されているのか。
- 事務局 永山フェスティバルなど従来は縦割りであったが、これを取り払っていろいろな団体、組織が相乗りして行っている。
- 委員 主催者がいてそれを支える団体がいる。公民館というのは「場所の提供」と「コーディネート（育成）」という役割がある。さらに自分たちが主体となってイベントをすることがある。このように整理をしていくとイベントを通じて人が育った。その育った団体が地域で活動するためには、コミュニティーセンターを活用する。例としては永山公民館のコーディネートで私の学校を使っていた多摩ドリームジャズオーケストラがある。横のつながりを広げていくことで公民館の役割が整理されて、公民館が身軽になって動けるようになっていくと思う。
- 事務局 公民館で学んで自分たちの活動になって、一定程度の活動になったら公民館がコーディネートという形で支援し、さらに地域に出て行く。しかし、これには非常に時間がかかる。
- 委員長 時間がかかるし参加する人によって左右されるが、評価されるべきことであると書いた方がよい。また市の施策が縦割りであることの弊害を感じる。（例 団地の高齢化を考えた上での管理組合のあり方や環境問題へ取り組み方が検討されるとよい。実態と合わない。）各課では縦割りになりやすいところを、公民館が広いところで考えてほしい。
- 委員 公民館はコミュニティーセンターとは違うという認識、時間がかかるが明確な目標があってやるのが大切である。地域で何かやらなければいけないのではなく、自分が学習すると自然と周りの人も高まる。市民が費用対効果を意識してよいのではないか。組織化もあまり急ぐ必要はない。多摩市の公民館はそれぞれの立地状況に合わせた施設運営をしていくことが必要である。
- 委員 現実的には、まずは（地域に出て行く前に）公民館内で実現してもらおうのがよいのではな

いか。いきなり地域に放り出すのではなく、ベルブゼみのように公民館内で小規模であっても実践し、力をつけることもできる。集うイコール学ぶである。

委員長 京都では公民館で講座を受けた人が観光ガイドをして活動し報酬をもらっていると聞いたが、多摩市の公民館でも可能か。

事務局 制約はないが、どこからお金がでているのか。観光客からのチップなのか市が払っているのか。

委員長 行政が払っている。

事務局 なおさら問題ない。

委員長 英語で言えばネイティブあるから英語教師として優れているとは限らない。知識と教えるということは別である。多摩市民は教養はすでに身につけておられる方が多いので、たとえば公民館で講座を受講された方が学校で教えるということもよいのではないか。

委員 以前、オーストラリアから来られたホームステイの生徒を学校に紹介したが、現場の先生からの抵抗があった。

委員 最近はそのようなことはないようにしている。学校側を補っていただける人材が必要である。趣味等で一芸に秀でる方を公民館から学校に紹介するということは出来る。

事務局 永山フェスティバルに出ておられる団体では、実際には市内を拠点としている団体は半分程度である。また公民館を中心に活動している団体は自分たちが楽しめるというレベルがあるので課題がある。永山フェスティバルは来場者が楽しめるレベルかどうか考えて検討されている。関戸ではビックバンドの団体などが生まれてきている。

委員 あまり手間暇をかけない段階で地域へ行ってもらえばよいのではないか。

事務局 再就職支援講座をしているが、実際の仕事までつながるケースは少ないのが現状である。公民館が実際に提供できる内容を検討しなければいけない。

委員 永山フェスティバルは公民館の職員が立ち上げて、その後実行委員会方式にした。それほど大きな企画でなくてよい。公民館が少し協力したり、コーディネートしてあげればよい。

委員 職員やお金に限りがあるのであれば、公民館職員はコーディネートに力を入れていく方向にシフトをしていけばよいのではないか。

事務局 その点は答申書の中に盛り込んでいきたい。

委員長 答申で書く際には、夢を実現する展望部分と実現可能な講座や事業の事例がほしい。次回

はその観点からも審議していただきたいので、宿題とする。その都度、公民館へ連絡していただいて結構である。

委員 横の連携には特に触れなくてもよいのか。どことつながるかによって連携の内容が違ってくる。

事務局 まだ「たたき台」である。広がるものと収束するものもあると思う。ひとつの事業でも目的があれば、はじまりと終わり（ゴール）がある。次回までに、案に加筆、修正等をして事務局にお送りいただきたい。

委員長 私たちは、市民が何を望んでいるかということ拾い上げていきたい。選出母体等の立場からも発言いただきたい。

②都公連委員部会報告（増永委員長）

第2回東京都公民館連絡協議会委員部会研修会の案内

〔4〕その他

第47回東京都公民館研究大会についての案内（テーマ） 地域を歩む公民館Ⅱ

次回は11月13日（金） 午後7時～ 於：永山公民館 視聴覚室